

精神障害の診断と査定のための基礎知識：「うつ」を考える

DSM の開発とその流布によって、メンタルヘルス専門家の共通理解のモデルができました。ただその理解と精神分析が長い間にわたって築いてきた力動的な精神病理学および米国で発展してきた力動的な精神医学との乖離が目立ち始めました。実際臨床家たちは、この二つの流れの間に橋渡しができないで困っているように見えます。もちろん DSM のなかにも、力動的な精神医学の遺産はパーソナリティ障害の診断として残されていますが、これも例えばカーンバーグの境界例論やコフートの自己愛理論に基づいた本来の力動的な理解から考える習慣は失われてきているように見えます。そこで今回 DSM と ISD との双方を力動的に理解して、精神障害を全体的に把握していくための精神病理学のセミナーを開催します。今回は「うつ」とは何かについてのお話を、力動的な精神医学の立場、精神薬理学の立場、そして力動的査定のための心理テストの視点から、そして力動フォーミュレーションの立場から「うつ」について考えます。

日 程：2017 年 3 月 20 日（月・祝）

時 間：10 時～17 時

場 所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町 8 番地

人 数：60 人（申し込み順で締切）

受講料：7000 円

プログラム

10:00～11:00

うつの診断：気分その他：DSM と力動的な査定：白波瀬丈一郎（慶応義塾大学）

11:10～12:10

精神薬理学的視点から見た「うつ」

渡邊衡一郎（杏林大学）

質疑 30 分

13:40～15:00:

心理検査から見た「うつ」の理解

吉村 聡（上智大学）

15:10～17:00

力動的な査定の作業：

妙木 浩之（東京国際大学）

事例検討：うつ病を中心に

加茂 聡子（四谷こころのクリニック）

おわりに 「うつ」の力動的査定のための総合ディスカッション：

NO. _____

心理臨床家のための力動的精神病理学入門1 申 込 書

本参加申込書は、下記住所まで E-mail、郵送または FAX にてお送りください。
メールの際は、件名に「精神病理学入門1」と記載し、下記の必要事項をご記入の上お
申し込み下さい。

〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-4SC ビル 6 階
小寺記念精神分析研究財団事務局
FAX : 03-3350-9749 E-mail : kodera.kt@nifty.com

申込期間 3月10日（金）まで期間厳守 申込 月 日

フリガナ 氏 名			男 ・ 女（19 年生）
勤 務 先			
所 属		職 種	経 験 年

（どちらかを○で囲んでください） 自宅 ・ 勤務先

連絡先 住 所	〒		
自 宅	電話	FAX	
勤 務 先	電話	FAX	
e-mail アドレス			

参加費：7,000円

☆ 参加の可否については、受付後順次葉書または、申込書に記載の E-mail アドレス
にご連絡いたします。定員になりしだい締め切ります。

本セミナーをどのようにして知りましたか？該当する箇所に○をお付け下さい。
郵便・ホームページ・メール・知人の紹介・その他（ ）

記載いただいた個人情報は、セミナーのご連絡・ご案内のみに使用いたします